

こらぼーよ

“こらぼーよ”とは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
~しようよ の組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第46号 2018・秋



● 「東京医大不正入試問題」を医療に関わるひとりとして考える

● 女性妊娠・出産するから迷惑をかける？

● 国民は生産するためのロボットではない!!

～多くの人を傷つけた杉田衆議院議員の差別発言～

● セミナー報告

出張！女性のための働き方セミナー「介護離職を防ごう！」

● 「運動会！」お弁当今昔

～家族・子育てに男女共同参画～

● 三木市男女共同参画センター新任職員紹介

● 図書紹介

弁護士による法律セミナー

働き方改革について

～長時間労働や同一労働・
同一賃金について考えよう!～



日時：11月28日(水) 10:00～11:30

場所：三木市立教育センター 4F 中研修室

講師：奥見 はじめ 弁護士

11月12日～25日は

「女性に対する

暴力をなくす運動」

期間です

(女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク)



「東京医大不正入試問題」を医療に関わるひとりとして考える



この夏、たくさんの自然災害とともに一時期連日のように新聞の一面を飾った「東京医大不正入試問題」。「女子受験生と3浪以上が合格しにくいように大学が入試の点数を操作していた」というこのニュースについて、多くの方が「女性差別以外の何物でもない」と憤り、また影響を受けた方々に同情する気持ちを抱いたことと思います。また、「女性が結婚や出産で医療現場を離れなくて済むような環境を整えるべきだ」という意見があちこちで見受けられ、労働環境を左右する権限のある上層部に女性が少ないことも問題点にあげられていました。

私は医療に関わる女性のひとりです。もちろんこのニュースには憤りを感じましたが、これは医療現場だけのことではないと思いました。実際、ある職場の採用試験では「一定数男性が必要だから、合格圏内にある女性よりも点数の低い男性が優先的に採用されることがある」と聞いたことがあります。

日本は諸外国に比べ政治・経済の面で男女の格差が大きく、長い間「女性は結婚・出産して家

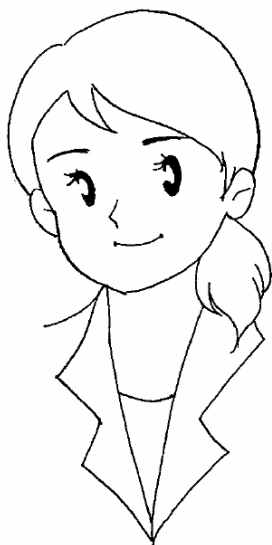
事・育児・介護、男性は一家の大黒柱として命を削って働く」という役割意識が幼いころから自然に植え付けられていました。その結果、例えば医療現場では効率よく男性医師を働かせて女性医師を遠ざける構図ができ上がってしまい、現場の医師たちもそれを自然に受け入れてしまっていたのかもしれない。男女の役割意識が強くなければ、別の解決策があったかもしれないのに…。

東京医大によれば「出産すると迷惑」となり、逆にLGBTに関して問題発言のあった杉田議員によれば「出産しない者は生産性がない」となります。子育てはとにかく出産は女性だけにしかできない事なので、女性が出産してもしなくても受け入れられる社会なら、安心して子どもを産むという選択ができると思うのですが…？

「医学部不正入試問題」自体については今後大学側がきちんとした対応をされることと思いますが、この問題をきっかけに、社会全体に「どうしたらこの課題が解決するのか」という意識が芽生えたらと願っています。(編集委員：A)



女性妊娠・出産から迷惑をかける？



「東京医大不正入試問題」。

妊娠・出産で現場に迷惑がかかるという理由にはいささか疑問を感じます。なぜなら、妊娠・出産は昨日今日で起こることではなく、事前に準備できるからです。ある日突然、「明日出産するのでしばらく休みます」とはならないため、代替えやフォローするための人員の準備ができるはずです。

看護師や福祉現場などを含め、女性スタッフが多い職場では、妊娠した段階で、スタッフが抜けても大丈夫な状態に準備しているのではないのでしょうか。

医師が不足している？それこそ、減点して優秀な受験生を医師になれないようにしていた結果なのではないのでしょうか。(編集委員：M)

国民は生産するためのロボットではない!!

～多くの人を傷つけた杉田衆議院議員の差別発言～

「新潮 45 8月号」に寄稿された、杉田議員の発言が大変話題となっていました。問題として取り上げられていたのは「LGBT は生産性がない」という発言でした。この発言は LGBT の人だけにはとどまらず、子どもを持たない夫婦や未婚の人など、多くの人を傷つけたのではないのでしょうか。

「子育て支援や不妊治療に税金を投入するなら…」という表現のあるこの問題の記事。そもそも子どもを産み育てるということは生産のためではなく、国民が個人の自由で生活を営む中でなされていくものです。お国のため、生産を上げるため…という考えをする時代はすでに終わっています。そして、国に貢献することは子どもを

産み育てることだけではありません。「生産性がない」と表現された LGBT の人たちも、子どもが欲しくても子どもがいない夫婦だって、独身の人だって、みんな労働や納税などで国に貢献しているのです。

この記事の内容には取り上げられていた部分以外にも「性別は男女の 2 つだけではだめなのか」や「同性婚を認めたら親子婚や兄弟婚を認めろなど歯止めがきかなくなる」など、多くの差別や問題発言が含まれていました。

杉田議員は「『常識』や『普通であること』を見失っていく社会は『秩序』がなくなる」と多様性を受け入れるのに反対していますが、多様性を受け入れることこそ、これからの未来に必要です。

国会議員の方には、すべての国民が豊かに暮らせる日本をめざしてもらいたいものです。

(編集委員:M)

9/29 セミナー報告

出張！女性のための働き方セミナー

「介護離職を防ごう！」講師：藤原寛子さん

秋雨が降る中始まった少人数制セミナー。まずは、自己紹介＆最近良かったことの発表です。介護上の悩みや、介護とは今は関係がないが将来のために参加等、自己紹介して和やかな雰囲気になりました。

次に介護離職を防ぐ方法として介護休業制度について説明がありました。離職を考える前にまずは勤務先に相談し、利用できる制度を確認すること、またできれば 2,3 カ所に相談し、ひとりで抱え込まずいろいろな人の知恵をもらうこと、情報収集の大切さ、介護者は自分の健康を第一に考えることも重要とのことでした。

今後の男女共同参画センター主催の講座

テーマ	講師	日時	会場
大丈夫？あなたの将来設計は！ ～年金の仕組みを知って賢く受給しよう～	沼澤郁美さん (社会保険労務士)	11月11日(日) 13:30～15:30	教育センター 3F セミナー室
働き方改革について ～長時間労働や同一労働・同一賃金について考えよう！～	奥見はじめさん (弁護士)	11月28日(水) 10:00～11:30	教育センター 4F 中研修室
「笑顔のススメ」 みんなで“わろてんか”	林家笑丸さん (落語家)	12月20日(木) 10:00～11:30	まなびの郷みずほ
2回でできる！ ネットショップ	宇田名保美さん (中小企業診断士)	1月11日(金) 1月18日(金) 10:00～11:30	教育センター 4F 中研修室
お笑いから学ぶコミュニケーション	桂山智哉さん (元漫才師・尼崎市職員)	2月19日(火) 13:30～15:00	中央公民館

最後にライフプランについて、自分のタイムテーブルを書き出し、時間配分について改めて見直してみました。特に、睡眠時間を意識的に確保することが介護者の健康には重要と強調されました。



全般を通して、参加者の発言後、必ず講師が発言の大切な点や良い姿勢を挙げ、皆で拍手をして認め合う、ポジティブで充実したセミナーとなりました。(編集委員：N)

「運動会！」お弁当今昔

～家族・子育てに男女共同参画～



実りの秋を迎え、食べ物の美味しい季節になりました。子どもたちも運動会を気合充分で頑張りました。親の応援方法は？やはりお弁当！と気合が入りますが、昨今、少し様子が違ってきています。

昔は早朝から家族、親戚分の重箱弁当を母親が作って、皆でお昼を食べていましたが、様々な事情や地域性、価値観の変化に伴い、個別弁当を子どもたちだけで食べることも選択できるようになっているようです。

お弁当を作る時、子ども、家族の嗜好(年齢、体調)等を考えます。食材、メニューには、家族の幸せや、絆を感じる要素も多く含んでいるように思います。

個人の特徴、家庭内、社会的な役割も様々ですが、普遍的なものとして、心のありかたや、家族に関心を持つ気持ちがあると思います。自分のできることを、自主的に行動することに共同参画の意義を感じられると、目の前に広がる日常の景色が変わり、大切な人の存在に気づくことができると思います。身近な家族や、大切な人の幸せを願い、行動すること、共存できることが共同参画社会なのではないでしょうか…

(編集委員：T)



図書紹介



『小説 透明なゆりかご』上・下

橘 もも、安達 奈緒子 著

沖田 ^{ばっか}×華 原作

講談社文庫 2018年



小さな産婦人科医院を舞台に看護師見習いの女子高生アオイの視点から描かれる物語。幸せな出産という光の部分だけではなく、中絶や死産などの影の部分も描いており、命と真摯に向き合っていく感動の物語です。

今夏ドラマ化され、20～30代女性から支持されている原作コミックの小説版です。

『神様の背中～貧困の中の子どもたち～』

さいき まこ 著

秋田書店 2015年



主人公は12年ぶりに臨時採用で職場復帰した公立小学校教師、涼子。前半は教師の立場から「子どもの貧困」に直面し、後半は自身と娘が当事者に…。

専門家や当事者たちに入念に取材をし、リアルに描いたコミックです。

三木市男女共同参画センター新任職員紹介

ー・辻田センター長・ー



男女が社会のあらゆる分野において、互いの人権を尊重し合い、性別にかかわらず、成果や責任を均等にわち合える男女共同参画社会の実現をめざし、各種セミナーや啓発活動の推進に取り組んでいます。

ー・水池・ー



4月から当センターに異動してきました。セミナー企画や情報誌を通じて皆さんに男女共同参画について様々な情報を提供できるよう、努力していきたいと思っています。

三木市男女共同参画センター

愛称 “こらぼーよ”

三木市福井 1933-12

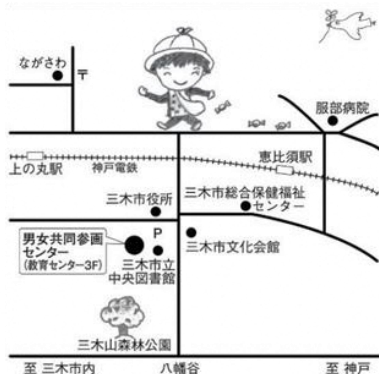
三木市立教育センター 3階

TEL&FAX : 0794-89-2331

開館日時：月曜～金曜 9時～17時

(※祝日を除く)

企画・編集：情報誌“こらぼーよ”編集グループ
発行：三木市男女共同参画センター



ー・編集後記・ー

今回取り上げた「生産性がない」発言の記事が掲載された雑誌、「新潮45」。10月号ではさらに杉田議員を擁護する内容で「LGBTを擁護するなら痴漢も擁護するべき」などという差別的な発言を掲載して休刊が決定しました。

また、永く愛されている国民的アニメである「ドラえもん」の中でも、ゲイのことを「気持ち悪い」と表現するようなシーンが放映されていました。

夏号で「最近のアニメは変わってきている」と取り上げたばかり…。残念ですね。(編集委員：M)